

しめきりにまにあわないのうた

作詞…雨和七瀬

作曲…そんな技量は無い

(間奏)

(前奏)

(セリフ)『締め切りは、破るためにある——』

この部に居る限り 避けられぬ宿命さだめ

刻一刻と迫りくる デッドライン

良い小説が 思い浮かんでも

長くなりすぎて 筆が止まる

嗚呼 赤べ前に 出された神作

書いた人よ 執筆以外は何してんの

※しめきりにまにあわない(まにあわない)

シーン同士が繋がらなくて

しめきりにまにあわない(まにあわない)

酒を飲んで飲まれて

本べにすら間に合わず

存在意義を自己問答

大学生だから 勉強が本分
一つ、また一つと 課題が出る

良い設定を 思いついても

後回しになり 忘れゆく

嗚呼 本べ前に 出されたレポート

先生よ それは無理がありませんか

しめきりにまにあわない(まにあわない)
新設定が生えてきちゃって

しめきりにまにあわない(まにあわない)

課題の波に飲まれて

締め切り過ぎて残るのは

ほぼ真っ白な没作品

(間奏)

こう見えて 創作意欲はあるんです
課題を終わらせ プロットも書いた

完璧、完璧なはずなのに――

※REPEAT

しめきりにまにあわない（まにあわない）
積みゲーを消費していたせいで
しめきりにまにあわない（まにあわない）
娯楽の渦に飲まれて
年一作ですら出せず
存在意義は考えない
考えるのをやめた――

（後奏）

（セリフ）『すみません 原稿落ちました』